

## 独立行政法人国立博物館の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価 全体評価

### ①評価を通じて得られた法人の今後の課題

- (イ) 常設展・企画展を通して入館者数は目標者数を大幅に超えたが、過剰な入館者数がある場合の入館の待ち時間の短縮や会場内混雑の緩和など、良好な観覧環境の確保が課題となった。
- (ロ) 今後は、国立博物館4館での共同による収蔵品を活用した展覧会や調査研究の実施など、人、ものを法人一体として活用する体制を整える必要がある。
- (ハ) 施設の老朽化、耐震性の確保に対し、早急な検討が必要である。
- (ニ) 海外の文化財を国内で紹介するだけでなく、今後は日本の文化財を海外に紹介する工夫を一層充実すべきである。

### ②法人経営に関する意見

- (イ) 現場レベルでの努力による成果は上がってきているが、経営レベルでの明確な達成すべきビジョンの形成とそれを実現するための方策の検討が必要である。
- (ロ) 外部資金導入のための専門的なセクションを設けるなど、法人全体としてのより積極的な取組が必要である。
- (ハ) 第2期中期目標期間に入ってすぐに平常展入場料を値上げすることについては時期尚早であり、十分な審議が必要である。

### ③特記事項

- (イ) 目的積立金の運用に関し、経営努力の認定基準については、総務省・財務省とその内容及び承認方法の明確化について、文部科学省・文化庁及び他法人と連携の上、さらに協議を続けていくべきである。
- (ロ) 平成19年4月の独立行政法人文化財研究所との統合に当たっては、文化財保護行政の一翼を担う中心機関として、これまで両法人が蓄積してきた実績を踏まえ、それぞれの長所を生かし相互に活性化することが重要である。
- (ハ) 文化財に関する国家補償制度及び寄贈等に対する税制の優遇措置については、その実現に向け、法人としても努力していくべきではないか。

独立行政法人国立博物館の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表 東京国立博物館

中期目標の項目名	評価	中期計画の項目名			評価	中期目標期間中の評価の経年変化				
		項目名【3年度】	項目名【4～15年度】	項目名【16～17年度】		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
大項目名)業務運営の効率化に関する事項		大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)業務運営の効率化に関する事項	B	(中項目名)効率化の状況 (小項目名)効率化の達成率			B	B	B	A	A	B
大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項		大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)収集・保管	S	(中項目名)文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況 (小項目名)寄託件数 (東博は寄贈も含む)			S	A	A	A	A	A
		(中項目名)保管の状況 (小項目名)保存カルテ作成件数			S	A	A	A	A	A
		(中項目名)修理の状況 (小項目名)文化財修理等のデータベース化件数 (小項目名)修理件数(寄託品を含む)			S	B	A	A	A	A
(中項目名)公衆への観覧	A	(中項目名)展覧会の状況 (小項目名)総入館者数	(中項目名)展覧会の状況 (小項目名)総入館者数	(中項目名)展覧会の状況 (小項目名)総入館者数	S	A	A	A	A	A
		(中項目名)常設展 (小項目名)常設展入館者数	(中項目名)常設展 (小項目名)陳列替数 (小項目名)陳列件数	(中項目名)常設展 (小項目名)陳列替数 (小項目名)陳列件数	S	A	A	A	A	A
		(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 全体で評価	A	A	A	A	A	A
		(小項目名)特別展等入館者数 展覧会ごとの評価				A	A	A	A	A
			(中項目名)地方巡回展 (小項目名)地方巡回展 入館者数	(小項目名)地方巡回展 入館者数			A	B		
		(中項目名)海外交流展 展覧会ごとの評価	(中項目名)海外交流展 展覧会ごとの評価			A	A	A		
		(中項目名)帰国展 (小項目名)海外交流 展入館者数 展覧会ごとの評価	(小項目名)海外交流 展入館者数					A		
		(小項目名)帰国展 入館者数						-		
		(中項目名)貸与 特別観覧の状況 (小項目名)貸与件数 (小項目名)特別観覧の件数			A	A	A	B	A	A
(中項目名)調査研究	A	(中項目名)調査研究の実施状況 (小項目名)客員研究員招聘人数	(中項目名)調査研究の実施状況 (小項目名)客員研究員招聘人数	(中項目名)調査研究の実施状況 (小項目名)客員研究員招聘人数	A	A	A	A	A	A
			(小項目名)研究誌(MUSEUM発行)	(小項目名)研究誌(MUSEUM発行)		A	A	A	B	A
			(小項目名)研究員派遣	(小項目名)研究員派遣			A	A	A	A

			(小項目名)海外研究者 招聘人数	(小項目名)海外研究者 招聘人数				A	A	A						
			(小項目名)外国人研究員 研修生受入	(小項目名)外国人研究員 研修生受入												
(中項目名)教育普及	A	(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A	A	A						
		(中項目名)広報活動の状況		(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況												
		(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況		(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況												
		(小項目名)出版件数		(小項目名)出版件数							(小項目名)出版件数	A	A	A	A	A
		(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(画像)		(小項目名)情報及び資料の収集							(小項目名)情報及び資料の収集	A	A	A	A	A
		(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(文字)		(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(画像)							(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(画像)	A	A	A	C	A
		(小項目名)ホームページのアクセス件数		(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(文字)							(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(文字)	A	A	A	C	A
		(中項目名)講演会等の実施状況		(中項目名)講演 講演会等の実施状況							(中項目名)講演 講演会等の実施状況	A	A	A	A	A
		(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況		(中項目名)講演 講演会等の実施状況							(中項目名)講演 講演会等の実施状況	A	A	A	A	A
		(中項目名)友の会の活動状況		(小項目名)子どもミュージアム、ワークショップ等							(小項目名)子どもミュージアム、ワークショップ等	B	A	A	A	A
		(小項目名)児童生徒を対象とした事業等の参加者数		(小項目名)子どもミュージアム、ワークショップ等							(小項目名)子どもミュージアム、ワークショップ等	A	A	A	A	A
		(小項目名)月例講演会 回数		(小項目名)子供向け美術鑑賞講座							(小項目名)子供向け美術鑑賞講座	A	A	A	A	A
		(小項目名)記念講演 回数		(小項目名)子供向け美術体験学習							(小項目名)子供向け美術体験学習	A	A	A	A	A
		(小項目名)夏期講座 回数		(小項目名)子供向け美術体験学習							(小項目名)子供向け美術体験学習	A	B	B	B	A
		(小項目名)列品解説 回数		(小項目名)公開講座 回数							(小項目名)公開講座 回数	A	A	A	A	A
		(小項目名)月例講演会 参加者数		(小項目名)友の会会員中心の講演会							(小項目名)友の会会員中心の講演会	A	A	A	A	A
		(小項目名)記念講演 参加者数		(小項目名)月例講演会等 アンケート							(小項目名)月例講演会等 アンケート	A	A	A	A	A
		(小項目名)夏期講座 参加者数		(小項目名)記念講演会 アンケート							(小項目名)記念講演会 アンケート	C	B	C	C	A
		(小項目名)列品解説 参加者数		(小項目名)夏期講座 アンケート							(小項目名)夏期講座 アンケート	A	A	A	A	A
		(小項目名)講演会等に対するアンケート結果		(小項目名)公開講座 アンケート							(小項目名)公開講座 アンケート	A	B	A	A	A
		(中項目名)研修等の取組状況		(中項目名)研修等の取組状況							(中項目名)研修等の取組状況	A	B	A	A	A
		(中項目名)ボランティアの活用状況		(中項目名)研修等の取組状況							(中項目名)研修等の取組状況	A	A	A	A	A
		(中項目名)大学等との連携の状況		(中項目名)ボランティア受入人数							(中項目名)ボランティア受入人数	A	A	A	A	A
		(小項目名)ボランティア受入人数		(小項目名)学芸担当職員の受入人数							(小項目名)学芸担当職員の受入人数	A	A	A	A	A
		(小項目名)学芸担当職員の受入人数		(小項目名)大学生等の受入人数							(小項目名)大学生等の受入人数	B	A	A	A	A
		(小項目名)大学生等の受入人数		(小項目名)渉外活動の状況							(小項目名)渉外活動の状況	A	A	A	A	A
		(中項目名)渉外活動の状況		(中項目名)その他の入館者サービス							(中項目名)その他の入館者サービス	B	B	A	A	A
		(中項目名)その他の入館者サービス		(中項目名)その他の入館者サービス							(中項目名)その他の入館者サービス	S	A	A	A	A

中期目標の項目に係る業務の評定については、全館共通

独立行政法人国立博物館の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別総表 京都国立博物館

中期目標の項目名	評価	中期目標の項目名			評価	中期目標期間中の評価の経年変化				
		項目名【3年度】	項目名【4～15年度】	項目名【16～17年度】		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する事項		大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置								
(中項目名)業務運営の効率化に関する事項	B	(中項目名)効率化の状況 (小項目名)効率化の達成率			B	B	B	A	B	B
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項		大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)収集・保管	S	(中項目名)文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況			S	A	A	A	A	A
		(小項目名)寄託件数				A	A	A	A	A
		(中項目名)保管の状況		(小項目名)保存カルテの作成件数	S	A	A	A	A	A
		(中項目名)修理の状況			A	A	A	A	A	A
		(小項目名)文化財修理等のデータベース化件数				B	A	A	A	A
		(小項目名)修理件数(寄託品を含む)				A	A	A	A	A
(中項目名)公衆への観覧	A	(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	A	A	A	A	B	A
		(小項目名)総入館者数	(小項目名)総入館者数	(小項目名)総入館者数			A	A	B	A
		(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	A	A	A	A	A	A
		(小項目名)常設展入館者数	(小項目名)陳列替数	(小項目名)陳列替数		B	A	A	A	A
		(小項目名)陳列件数	(小項目名)陳列件数	(小項目名)陳列件数			A	A	A	A
		(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 全体で評価	A	B	A	A	A	A
		(小項目名)特別展等入館者数 展覧会ごとの評価				B	A	A	A	B
						C	A	A	A	A
						A	A	A	B	A
		(中項目名)地方巡回展				A	A		A	
		(小項目名)地方巡回展入館者数				A	B		A	
		(中項目名)海外交流展 展覧会ごとの評価				A	A			
		(中項目名)貸与・特別観覧の状況			A	A	A	A	A	A
		(小項目名)貸与件数				A	A	A	A	A
		(小項目名)特別観覧の件数				A	A	A	A	A
(中項目名)調査研究	A	(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	A	A	A	A	A	A
		(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数		A	A	A	A	A
			(小項目名)海外研究者	(小項目名)海外研究者招聘人数				C	A	A
			(小項目名)研究員派遣	(小項目名)研究員派遣				A	A	A
(中項目名)教育普及	A	(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A	A	A
		(中項目名)広報活動の状況				A				
		(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況				A				
		(小項目名)博物館だより出版件数	(小項目名)博物館だより出版件数	(小項目名)博物館だより出版件数		A	A	A	A	A
			(小項目名)情報及び資料の収集	(小項目名)情報及び資料の収集				B	A	A
		(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数				A	A	A	A	A
		(小項目名)ホームページのアクセス件数				A	A	A	A	A
		(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座 講演会等の実施状況	(中項目名)講座 講演会等の実施状況	A	A	A	A	A	A
		(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況				A				
		(中項目名)友の会の活動状況				B				

		(小項目名)児童生徒を対象とした事業等の参加者数	(小項目名)小学生向け作品解説シート	(小項目名)小学生向け作品解説シート	(小項目)博物館ディクショナリー		A	A	A	A	A
		(小項目名)土曜講座 回数					A	A	A	A	B
		(小項目名)夏期講座 回数					A	A	A	A	A
		(小項目名)土曜講座 参加者数					A	A	A	A	A
		(小項目名)夏期講座 参加者数					B	B	A	A	A
		(小項目名)講演会等 アンケート	(小項目名)土曜講座 アンケート	(小項目名)土曜講座 アンケート			A	B	A	A	A
			(小項目名)夏期講座 アンケート	(小項目名)夏期講座 アンケート				B	A	A	A
		(中項目名)研修の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況		A	B	A	A	A	A
		(中項目名)ボランティアの活用状況					A				
		(中項目名)大学等との連携の状況					A				
		(小項目名)ボランティア受入件数					A	A	A	A	A
		(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)博物館実習			A	A	B	A	A
				(小項目名)京都大学大学院人間・環境学研究					A		
		(中項目名)渉外活動の状況					B	B	B	B	A
		(中項目名)その他の入館者サービス					A	A	A	B	A
(中項目名)その他の入館者サービス	A										

中期目標の項目に係る業務の評価については、全館共通

独立行政法人国立博物館の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別総表 奈良国立博物館

中期目標の項目名	評価	中期目標の項目名			評価	中期目標期間中の評価の経年変化							
		項目名【3年度】	項目名【4～15年度】	項目名【16～17年度】		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度			
大項目名 業務運営の効率化に関する事項		大項目名 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置											
(中項目名)業務運営の効率化に関する事項	B	(中項目名)効率化の状況 (小項目名)効率化の達成率			B	B	B	A	A	B			
大項目名 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項		大項目名 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置											
(中項目名)収集・保管	S	(中項目名)文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況 (小項目名)寄託件数			S	A	A	A	A	A			
		(中項目名)保管の状況 (小項目名)調査点検件数	(中項目名)保管の状況 (小項目名)保存カルテの作成件数	(中項目名)保管の状況 (小項目名)保存カルテの作成件数	S	A	A	A	A	A			
		(中項目名)修理の状況 (小項目名)修理件数(寄託品を含む)			S	A	A	A	A	A			
(中項目名)公衆への観覧	A	(中項目名)展覧会の状況 (中項目名)常設展 (小項目名)常設展 入館者数	(中項目名)展覧会の状況 (小項目名)総入館者数 (中項目名)常設展 (小項目名)常設展 入館者数	(中項目名)展覧会の状況 (小項目名)総入館者数 (中項目名)常設展 (小項目名)常設展 入館者数	S	A	A	A	A	A			
		(中項目名)特別展等 *展覧会ごとに評価	(中項目名)特別展等 *展覧会ごとに評価	(中項目名)特別展等 *全体的に評価	A	A	A	A	A	A			
		(小項目名)特別展 入館者数 *展覧会ごとに評価				C	A	A	A	A			
		(中項目名)地方巡回展 (小項目名)地方巡回展 入館者数				A	B	A	A	A			
			(中項目名)海外交流展 (小項目名)海外巡回展 入館者数	(中項目名)海外交流展 (小項目名)海外巡回展 入館者数		B							A
		(中項目名)貸与 特別観覧の状況 (小項目名)貸与件数 (小項目名)特別観覧の件数			A	A	A	A	A	A			
(中項目名)調査研究	A	(中項目名)調査研究の実施状況 (小項目名)客員研究員招聘人数	(中項目名)調査研究の実施状況 (小項目名)客員研究員招聘人数 (小項目名)研究員派遣	(中項目名)調査研究の実施状況 (小項目名)客員研究員招聘人数 (小項目名)研究員派遣	A	A	A	A	A	A			
			(小項目名)海外研究者招聘人数	(小項目名)海外研究者招聘人数			A	A	A	A			
(中項目名)教育普及	A	(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況 (中項目名)広報活動の状況 (中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況 (小項目名)情報及び資料の収集	A	A	A	A	A	A			A
		(小項目名)博物館だより出版件数 (小項目名)収蔵品等のデジタル化件数 (小項目名)ホームページのアクセス件数				A	A	A	A	A			A
		(中項目名)講演会等の実施状況 (中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況	(中項目名)講座 講演会等の実施状況	(中項目名)講座 講演会等の実施状況	A	A	A	A	A	A			A
		(中項目名)友の会の活動状況				B							

		(小項目名)児童生徒を対象とした事業等の参加者数	(小項目名)親子の文化財教室			A	A	B	C	C
		(小項目名)講座 回数	(小項目名)特別展等講座 回数	(小項目名)特別展等講座 回数		A	A	A	A	A
		(小項目名)夏期講座 回数				B	A	A	A	A
		(小項目名)ギャラリートーク 回数				A	A	A	A	A
		(小項目名)講座 参加者数	(小項目名)友の会会員中心の講演会			A	A	A	A	A
		(小項目名)夏期講座 参加者数	(小項目名)特別展等講座 参加者数	(小項目名)特別展等講座 参加者数		A	A	A	A	A
		(小項目名)夏期講座 参加者数	(小項目名)夏期講座 参加者数	(小項目名)夏期講座 参加者数		B	B	A	A	A
		(小項目名)ギャラリートーク 参加者	(小項目名)ギャラリートーク 参加者数	(小項目名)ギャラリートーク 参加者数		A	A	A	A	A
		(小項目名)講演会等 アンケート	(小項目名)特別展等講座 アンケート	(小項目名)特別展等講座 アンケート		A	A	A	C	A
			(小項目名)夏期講座 アンケート	(小項目名)夏期講座 アンケート		A	A	A	A	A
		(中項目名)研修の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	A	B	A	A		A
		(中項目名)ボランティアの活用状況				A				
		(中項目名)大学等との連携の状況				A				
		(小項目名)ボランティア受入件数		(小項目名)ボランティアに対する研修		B	A	A	A	A
		(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)大学生等の受入人数		B	B	A	A	A
		(小項目名)放送大学の面接授業回数	(小項目名)放送大学の面接授業回数	(小項目名)放送大学の面接授業回数			A	A	A	A
		(小項目名)放送大学の面接授業人数	(小項目名)放送大学の面接授業人数	(小項目名)放送大学の面接授業人数			A	A	A	A
		(小項目名)奈良女子大学との連携講座(大学院生)	(小項目名)奈良女子大学との連携講座(大学院生)	(小項目名)奈良女子大学との連携講座(大学院生)			A	A	A	
				(小項目名)博物館実習					A	B
		(中項目名)渉外活動の状況			B	B	A	B	A	B
	A	(中項目名)その他の入館者サービス	(中項目名)その他の入館者サービス		A	A	A	A	A	A

中期目標の項目に係る業務の評価については、全館共通

独立行政法人国立博物館の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

項目別総表 九州国立博物館】

中期目標の項目名	評価	中期計画の項目名		評価	中期目標期間中の評価の経年変化					
		項目名【3～16年度】	項目名【7年度】		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
大項目名 業務運営の効率化に関する事項			大項目名 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目名 業務運営の効率化に関する事項	B		中項目名 効率化の状況 小項目名 効率化の達成率	B						B B
大項目名 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項			大項目名 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目名 収集・保管	S		中項目名 文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況 小項目名 寄託件数	S						A A
			中項目名 保管の状況 小項目名 保存カルテの作成件数	S						A A
			中項目名 修理の状況 小項目名 修理件数(緊急性の高いもの) 小項目名 修理件数(被災文化財)	S						A A A
中項目名 公衆への観覧	A		中項目名 展覧会の状況 小項目名 総入館者数	S						A A
			中項目名 常設展 小項目名 陳列替数 小項目名 陳列件数	S						A A A
			中項目名 特別展等 *全体的に評価 小項目名 特別展 入館者数 *展覧会ごとに評価	S						A - A
中項目名 調査研究	A		中項目名 貸与 特別観覧の状況 中項目名 調査研究の実施状況	- A						A A
			小項目名 客員研究員招聘人数 小項目名 研究員派遣 小項目名 海外研究者招聘人数							A A A
中項目名 教育普及	A		中項目名 博物館に関する情報の収集及び公開の状況 小項目名 情報及び資料の収集 小項目名 収蔵品等のデジタル化件数	A						A A A
			中項目名 講座 講演会等の実施状況 小項目名 開館記念講演及びシンポジウム 回数 小項目名 開館記念講演及びシンポジウム 人数 小項目名 特別展記念講演会 回数 小項目名 特別展記念講演会 人数 小項目名 特別展連絡講座 回数 小項目名 特別展連絡講座 人数 小項目名 特別展連絡講座 アンケート 小項目名 ミュージアム講座 回数 小項目名 ミュージアム講座 人数 小項目名 ミュージアム講座 アンケート 小項目名 ミュージアムトーク 回数 小項目名 ミュージアムトーク 人数	S						A - - - - - - - - - - - - - - -
			中項目名 研修等の取組状況 小項目名 インターンシップ 中項目名 渉外活動の状況	A A A						A A A
中項目名 新たな博物館の運営に向けた取り組み	S	(中項目名)九州国立博物館(仮称)開館への準備状況		S	A	A	A	A		A
中項目名)その他の入館者サービス	A		中項目名)その他の入館者サービス	S						A

中期目標の項目に係る業務の評価については、全館共通



【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較（過去5年分を記載）

（単位：百万円）

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
収入						支出					
運営費交付金	4,612	4,688	5,128	5,955	6,622	運営事業費	4,717	5,083	5,346	7,180	9,158
施設整備費補助金	184	308	39	2,159	312	人件費	1,988	2,154	2,181	2,345	2,257
展示事業収入	698	939	917	995	1,339	業務経費	2,729	2,929	3,165	4,835	6,901
その他寄附金等	30	50	41	51	51	一般管理費	484	403	628	664	1,001
						展覧事業費	1,813	1,932	1,714	2,581	4,744
						調査研究事業費	386	372	407	573	1,039
						教育普及事業費	34	52	84	114	117
						九州国立博物館（仮称）設立等準備事業費	12	170	332	903	0
						施設整備費	184	308	39	2,158	808
計	5,524	5,985	6,125	9,160	8,324	計	4,901	5,391	5,385	9,338	9,966

（単位：百万円）

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
費用						収益					
経常経費	4,095	4,399	4,776	5,709	6,579	運営費交付金収益	3,331	3,684	4,001	4,166	4,716
人件費	2,020	2,189	2,236	2,389	2,307	展示事業等の収入	665	898	917	1,062	1,488
業務経費	2,075	2,210	2,540	3,320	4,272	寄付金収益	115	53	41	48	43
一般管理費	538	498	580	563	957	資産見返負債戻入	112	122	122	138	239
展覧事業費	1,019	1,022	1,154	1,480	2,158	臨時利益	0	33	0	0	140
調査研究事業費	364	383	399	532	800						
教育普及事業費	31	53	85	101	109						
九州国立博物館（仮称）設立等準備事業費	11	132	201	507	0						
減価償却費	112	122	121	137	248						
臨時損失	0	46	12	0	27						
計	4,095	4,445	4,788	5,709	6,606	計	4,223	4,790	5,081	5,414	6,626
						純利益	128	345	293	-295	20
						目的積立金取崩額	0	0	21	295	-104
						総利益	128	345	314	0	-84

（単位：百万円）

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	3,411	4,084	4,626	5,086	6,843	業務活動による収入	5,396	5,761	6,144	7,042	8,141
投資活動による支出	1,043	1,782	1,249	2,312	4,034	運営費交付金による収入	4,612	4,688	5,128	5,955	6,622
財務活動による支出	0	0	0	0	13	展示事業等による収入	784	1,073	1,016	1,087	1,519
翌年度への繰越金	1,126	2,947	3,267	3,789	2,671	投資活動による収入	184	432	0	878	1,631
						施設費による収入	184	432	0	878	1,631
						財務活動による収入	0	1,494	51	0	0
						前年度よりの繰越金	0	1,126	2,947	3,267	3,789
計	5,580	8,813	9,142	11,187	13,561	計	5,580	8,813	9,142	11,187	13,561

【参考資料2】貸借対照表の経年比較 (過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資産						負債					
流動資産	2,680	3,045	3,370	5,221	2,851	流動負債	1,102	1,030	1,570	3,935	2,527
固定資産	147,453	153,955	153,954	169,662	172,454	固定負債	656	845	867	1,213	2,300
						負債合計	1,758	1,875	2,437	5,148	4,827
						資本					
						資本金	71,563	72,692	72,692	86,247	86,247
						資本剰余金	76,684	81,960	81,445	83,301	84,210
						利益剰余金	128	473	750	187	21
						(うち当期末処分利益)	128	345	314	0	-84
						資本合計	148,375	155,125	154,887	169,735	170,478
資産合計	150,133	157,000	157,324	174,883	175,305	負債資本合計	150,133	157,000	157,324	174,883	175,305

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較 (過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
当期末処分利益					
当期総利益	128	345	314	0	-84
前期繰越欠損金	0	0	0	0	0
利益処分額					
積立金	0	4	101	0	-84
独立行政法人通則法第44条第3項によ					
主務大臣の承認を受けた額	128	341	213	0	0
業務拡充積立金	79	247	213	0	0
施設改修積立金	49	94	0	0	0

【参考資料4】人員の増減の経年比較 (過去5年分を記載)

(単位:人)

職種	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
定年制研究職員	85	87	92	97	94
任期制研究系職員	0	0	0	1	1
再任用研究系職員	0	0	1	0	0
定年制事務職員	82	88	88	91	93
任期制事務職員	0	0	0	0	0
再任用事務職員	0	0	0	0	1
定年制技能・労務職員	40	40	38	34	30
任期制技能・労務職員	0	0	0	0	0
再任用技能・労務職員	0	0	0	0	0
指定職相当職員	0	1	1	1	2

## 独立行政法人国立博物館の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価

### 項目別評価

中期計画の各項目ごとに段階的評価を行う。

#### 段階的評価

- 「S」: 特に優れた実績上げている。
- 「A」: 中期目標を十分に達成した。
- 「B」: 中期目標を概ね達成した。
- 「C」: 中期目標は十分に達成されなかった。
- 「-」: 評価しない。

#### 定性的評価

評価を出すに至って背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性を記述する。

#### 段階的評価結果の館の略称

- 東京: 東京国立博物館
- 京都: 京都国立博物館
- 奈良: 奈良国立博物館
- 九州: 九州国立博物館

### 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期目標	段階的評価	中期計画	指標又は評価項目	評価基準	事業年度段階的評価結果					中期目標期間評価		
					13	14	15	16	17	段階的評価	定性的評価	
<p>職員の意識改革を図るとともに、事務、事業、組織等の見直し、外部委託の推進等により、経費の合理化を図ること。</p> <p>具体的には、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p>	B	<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務のOA化の推進</p> <p>(6) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	効率化の状況	法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評価								<p>人事、共済、給与事務などの本部における業務の一元化、省エネ化、OA化などの効率化が着実に進んだ。</p> <p>なお、博物館業務が活性化され、入館者が増加すれば必然的にエネルギー使用量や廃棄物は増加するものであり、一律な1%の効率化は困難な場合もあることに留意が必要である。</p> <p>一方、職員の意識改革の点ではいまだ民間レベルに達していない。ダイナミックな意識改革のため、経営問題や顧客サービスの研修等を行ってはどうか。</p>
			東京	B	B	A	A	B	B			
			京都	B	B	A	B	B	B			
			奈良	B	B	A	A	B	B			
			九州					B	B			

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期目標	段階的 評定	中期計画	指標又は 評価項目	評定基準	事業年度評価結果					中期目標期間評定	
					13	14	15	16	17	段階的評定	定性的評定
1 収集・保管  (1) 国の文化財保護の取り組みとの整合性、一体性に留意しつつ、各館の目的、収集方針に即した計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受入れの推進によるバランスのとれた収蔵品の充実を図ること。  (2) 収蔵品の保存及び管理環境の維持充実を図り、収蔵品全体が常時、適切な保存及び管理環境下にある状況とすること。  (3) 各館の連携を図りつつ、収蔵品についての修理、保存処理の研究及び計画的実施により適切な保存を図るとともに、国内外の博物館等の修理、保存処理の充実への寄与に努めること。	S	1 収集・保管  (1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。 <b>(東京国立博物館)</b> 日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術及び考古資料等を収集する。 <b>(京都国立博物館)</b> 京都文化を中心とした美術及び考古資料等を収集する。 <b>(奈良国立博物館)</b> 仏教美術を中心とした名品を収集する。 <b>(九州国立博物館)</b> 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。  (1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。	文化財の収集（購入・寄贈・寄託）の状況	法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評定							各館の収集方針に基づき、限られた予算内だが、寄贈、寄託、購入のいずれにおいても着実に成果を上げた。今後は、各館ごとの魅力が際立つような収集方針を確立することが必要である。
		東京	A	A	A	A	A	S			
		京都	A	A	A	A	A	S			
		奈良	A	A	A	A	S				
		九州				A	S				
		(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。  (2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	保管の状況	法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評定							各館の工夫や努力により、温湿度や照明等に配慮した適切な保管が行われた。今後は、空調設備の老朽化への対応が必要である。
		東京	A	A	A	A	S				
		京都	A	A	A	A	S				
		奈良	A	A	A	A	S				
		九州				A	S				
		(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 長期寄託品等の修理を実施する。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。  (3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実寄与する。	修理の状況	法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評定							緊急性の高いものから着実に修理が行われた。今後は、国立博物館4館の保存カルテや修理データの共通化及び共有化が必要である。
		東京	A	A	A	A	S				
		京都	A	A	B	A	A				
		奈良	A	A	A	A	S				
		九州				A	S				
2 公衆への観覧		2 公衆への観覧	展覧会の	法人が提出する中期期							国民の関心を強く喚

A

- (1) 常設展、特別展等の展覧会を計画的に実施し、広く国民や外国人が国内外の優れた文化財・美術作品を鑑賞するとともに、人類の文化遺産の歴史的な流れや、芸術家による創造活動等について理解を得ることができる機会を提供すること。  
 実施に当たっては、学術的意義、国民の関心、国際文化交流の推進等に配慮して、中期目標期間全体としてバランスのとれたものとなるようにすること。  
 また、展示以外にも多様な方法を活用し、収蔵品についての理解の促進、関心の喚起等を図ること。  
 各々の展覧会について、開催目的、期待する成果等を明確にし、学術的意義、専門家等からの意見や入館者の満足度等を踏まえた事業評価を他の展覧会の充実に反映させていくこと。  
 更に、国内外の博物館・美術館との連携協力を推進し、巡回展の実施については中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上となるよう努めるなど、各地の観覧の機会の充実に寄与すること。
- (2) 収蔵品、出土文化財等について、効率的活用を努めるとともに、他館や地方公共団体との相互活用を促進することにより、活用状況の充実に努めること。
- (3) 幅広く多数の国民の観覧を目指して、中期目標期間全体及び個々の展覧会において、実施目的、内容、良好な観覧環境の確保、過去の入館者数の状況等を踏まえた適切な入館者数の目標を設定し、その達成に努めること。

- (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。
- (1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良・九州の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄与する展示を実施する。
- (1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。  
**(東京国立博物館)**  
 年3～5回程度  
**(京都国立博物館)**  
 年2～3回程度  
**(奈良国立博物館)**  
 年2～3回程度  
**(九州国立博物館)**  
 年2回程度
- (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
- (1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度)
- (1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。
- (1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実に努める観点から、全国の公立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度)  
 なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。
- (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

状況	間終了後の事業報告書 やヒアリング等を基 に、その達成状況を各 委員の協議で評定							起した企画展や地方に 優れた文化財の鑑賞機 会を提供した地方巡回 展など様々な展覧会が バランスよく開催され た。 このような取組の結 果、全体として入館者 数が今中期目標期間に おいては大きく増加し た。 今後は、法人全体で 展覧会の中長期的な企 画調整や協議を行うこ とが必要である。また、 共催展については新た なルール作りが必要で ある。
東京		A	A	A	A	A	S	研究員が蓄積した研 究成果を生かしつつ、 学術的に高い水準を保 ちながら広く観覧者の 興味を喚起させるテー マを設定するなどの工 夫が行われ、質の高い 充実した展覧会が数多 く行われた。特集陳列 ・特別公開を含め、展 示替えに努力し、その 成果として入館者の増 加に結びついた。また、 特別展と比較すると入 館者が少ないことから、 広報戦略に更に積極的 に取り組むことが必要 である。
京都		A	A	A	B	A	A	
奈良		A	A	A	A	A	S	
九州						A	S	
常設展								
東京		A	A	A	A	A	S	研究員が蓄積した研 究成果を生かしつつ、 学術的に高い水準を保 ちながら広く観覧者の 興味を喚起させるテー マを設定するなどの工 夫が行われ、質の高い 充実した展覧会が数多 く行われた。特集陳列 ・特別公開を含め、展 示替えに努力し、その 成果として入館者の増 加に結びついた。また、 特別展と比較すると入 館者が少ないことから、 広報戦略に更に積極的 に取り組むことが必要 である。
京都		A	A	A	A	A	A	
奈良		A	A	A	A	A	A	
九州						A	S	
特別展等								
東京	13～15年度は展覧会 ごとで評価	A A B A A -	A A A A A A	A A A A A A	A	A	A	研究員が蓄積した研 究成果を生かしつつ、 学術的に高い水準を保 ちながら広く観覧者の 興味を喚起させるテー マを設定するなどの工 夫が行われ、質の高い 充実した展覧会が数多 く行われた。その結果 として、多くの入館者 を得ることとなった。 特に九州国立博物館 は、地域性を活かした 展覧会により、地域の 活性化にも直結した。
	地方巡回展 帰国展	A		A A				
京都	13～15年度は展覧会 ごとで評価	B B A	A A A	A A A B	A	A	A	
	地方巡回展等 海外交流展	A A	A A		A			
奈良	13～15年度は展覧会	A	A	A	A	A	A	

			ごとで評価	A	A A	A A A				
			地方巡回展	B					A	S
		九州								
		(2)-1 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。	貸与・特別観覧の状況	法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評定						
		(2)-2 国立博物館及び公立博物館が所蔵する考古資料を相互に貸借し、歴史的・考古学的に体系的・通史的な展覧会を実施する。(年間5件程度)	東京		A	A	B	A	A	A
			京都		A	A	A	A	A	A
			奈良		A	A	A	A	A	A
			九州						A	-
										公私立博物館等に対して貸与や特別観覧が行われ、文化財を広く国民へ公開することに貢献できた。 引き続き、文化財の保管状況や自館での展示計画に留意しつつ、博物館のナショナルセンターとして、公立博物館からの貸与要望にできる限り応えていくことが望ましい。 特別観覧については、専門研究者に対する配慮とともに、法人全体として著作権等を含む制度の整備が必要である。
3 調査研究	A	3 調査研究	調査研究の状況	法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評定						
(1) 国内外の博物館・美術館関係者との研究会の開催や研究者の交流等も行いつつ、収蔵品や寄託品・借用品の作者・制作時期・来歴や背景・保管・展示に関する調査研究や関連する館外の文化財・美術品に関する調査研究など、博物館活動の推進に寄与する調査研究を計画的に実施するとともに、研究成果を文化財の収集等の業務の充実、文化の振興に反映させること。		(1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示、教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる各館の方針に従い、調査研究を積極的に実施する。 <b>(東京国立博物館)</b> 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。 法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。 長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。 館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。 <b>(京都国立博物館)</b> 京都文化を中心とした文化財の調査研究を計画的に実施する。 神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。 修復文化財に関する調査研究を実施する。 <b>(奈良国立博物館)</b> 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。 仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。 <b>(九州国立博物館)</b> 日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究を実施する。 文化財の科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究を実施する。	東京		A	A	A	A	A	A
			京都		A	A	A	A	A	A
			奈良		A	A	A	A	A	A
			九州						A	A
(2) 調査研究成果を多様な方法を活用して積極的に公表し、国民の文化、文化財、博物館活動に対する理解促進、関心の喚起等を図るとともに、国内外の博物館活動の推進に寄与すること。		(1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設								
										収蔵品や展覧会に関する調査研究が行われ、文化財の収集や展示に反映されるとともに、図録の刊行などに成果を挙げた。 また、外部の研究者との連携・協力により充実した調査研究が行われた。 研究成果については、博物館関係領域にとどまらず、広く公開することが望まれる。 科学研究費補助金等の外部資金の確保については、研究者個人ではなく法人全体としての新たな方針の検討が必要である。

		<p>の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>									
<p><b>4 教育普及</b></p> <p>(1) 国内外の情報の収集、記録の作成・蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実により国民の理解の促進等に寄与すること。</p> <p>(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施も踏まえ、館の教育普及機能及び環境の整備、学校や社会教育関係団体等との連携強化や学校の教員を対象とした研修等の検討・実施により、児童生徒を対象とした教育普及の取り組みの充実や学校教育における美術館の活用を推進を図り、心の教育への寄与、文化、文化財等の理解促進、学習意欲・興味・関心喚起等を行うこと。</p> <p>なお、児童生徒を対象とした主催事業への参加者数については中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の確保に努めること。</p> <p>(3) 生涯学習の推進に向けた取り組みを充実することにより、文化、美術品等の理解促進、興味・関心喚起等を行うこと。</p> <p>なお、主催事業に参加した者のうち、毎年度平均で80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と回答されるよう内容等の充実を図るとともに、参加者数については中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の確保に努めること。</p> <p>(4) 全国の博物館・美術館の展覧会等の運営に対する援助・助言、博物館・美術館職員その他関係者を対象とした実務研修を含めた研修機能・研修内容等の充実、情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。</p> <p>なお、国立博物館が主催する実務研修については、参加者の知識や技術の習得における達成度が向上するよう研修内容の充</p>	A	<p><b>4 教育普及</b></p> <p>(1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。</p> <p>また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。</p> <p>また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>博物館に関する情報の収集及び公開の状況</p> <p>法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評定</p>								<p>文化財への理解促進を図るため、資料の収集・公開、ホームページ等を通じた広報活動、収蔵品情報のデジタル化を積極的に行ったことを評価する。</p> <p>画像データの有料提供については、料金設定に工夫が望まれる。</p> <p>子供から大人までの幅広い層を対象として、講演会開催、ワークショップの実施、学校との連携など様々な教育普及活動が実施された。今後は、法人として教育面における基本的な指針を確立し、国民の学習の場としてどう機能すべきか検討することが必要である。</p>
		東京	資料の収集及び公開(閲覧)の状況	A	A	A	A	A			
			広報活動の状況	A							
			収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況	A							
		京都	資料の収集及び公開(閲覧)の状況	A	A	A	A	A			
			広報活動の状況	A							
			収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況	A							
		奈良	資料の収集及び公開(閲覧)の状況	A	A	A	A	A			
			広報活動の状況	A							
			収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況	A							
九州						A	A				
	講座・講習会等の実施状況	法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評定									
東京	講演会等の実施状況	A	A	A	A	A					
	児童生徒を対象とした講座等の実施状況	A									
	友の会の活動状況	B									

実に努めること。

(5) インターネット等を活用した各種情報の積極的な発信、展覧会や教育普及事業等についての広報活動を充実し、文化、文化財、博物館活動についての国民の理解促進、情報入手等に寄与するものとする。  
 なお、ホームページへのアクセス件数については中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上を達成するよう努めること。

(6) ボランティア等や支援団体を育成し、意思疎通、理解を促進することにより、ボランティア等実施者の文化等に対する学習ニーズへの適切な対応とともに、ボランティア等実施者の拡大と協力による博物館におけるサービス提供の充実を図ること。  
 なお、ボランティア等実施者数については中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の確保に努めること。

験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受入れを実施する。  
**(京都国立博物館)**  
 小中学生学習プログラム等について検討、実施する。  
**(奈良国立博物館)**  
 親子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。  
 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。  
**(九州国立博物館)**  
 ミュージアム体験事業を実施し、児童生徒に対する教育普及の推進を図る。

(3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるとともに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。  
 それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。  
 また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

(3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。

(3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心から一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。

(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。

(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。

(4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。

(4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。

(4)-5 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について検討、実施する。

(6)-1 ボランティア希望者に対し、そのニーズに応える研修を実施し、参加者の拡大を図る。ボランティアは登録を行い、連携協力して展覧会での解説など、国立博物館が提供するサービスの充実を図る。  
 なお、ボランティアの受け入れについては、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の延人数の確保に努める。

(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

京都		A	A	A	A	A
	講演会等の実施状況	A				
	児童生徒を対象とした講座等の実施状況	A				
	友の会の活動状況	B				
奈良		A	A	A	A	A
	講演会等の実施状況	A				
	児童生徒を対象とした講座等の実施状況	B				
	友の会活動状況	B				
九州					A	S
研修等の取組み状況	法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評定					
東京		B	A	A	A	A
	ボランティアの活用状況	A				
	大学等との連携の状況	A				
京都		B	A	A	A	A
	ボランティアの活用状況	A				
	大学等との連携の状況	A				
奈良		B	A	A	A	A
	ボランティアの活用状況	A				
	大学等との連携の状況	A				
九州					A	A
渉外活動の状況	法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各					

現在の博物館実習は、ナショナルセンターとしての国立博物館の業務になじむのか検討が必要である。大学・大学院と連携しつつ、将来の専門的人材の育成にどのように取り組むかという観点から見直しが必要ではないか。  
 国立博物館の教育機能をどのように展開するのか、法人全体としての基本的なビジョンを明確にすることが望まれる。

企業からの助成金や地元の商店街の協力など様々な取組が行われた。



			委員の協議で評定						<p>今後は企業からの支援なしでは国立博物館の経営が困難になると考えられるため、一層の努力と具体的方策の検討が望まれる。</p>			
			東京	B	B	A	B	B		B		
			京都	B	B	B	A	B		B		
			奈良	B	A	B	A	B		B		
			九州					A		A		
<p><b>5 新たな博物館の運営に向けた取り組み</b></p> <p>平成17年度を目途に開設される九州国立博物館（仮称）の適切な運営に向けた展示、調査研究等の実施準備を計画的に進めること。</p>	S	<p><b>5 新たな博物館の運営に向けた取り組み</b></p> <p>法人本部に九州国立博物館（仮称）設置準備室を設置し、展示の企画・設計、展示に必要な作品収集、調査研究等の機能の整備など、開設に支障のないよう準備を推進する。</p>	九州国立博物館開館への準備状況	<p>法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評定</p>							<p>平成17年度の開館に向け、計画通り準備を進め、新しい運営方式を試みた点は評価できる。</p> <p>また、開館後半年足らずの間に目標入館者数を大幅に上回る入館者を得ることができた。</p>	
<p><b>6 その他の入館者サービス</b></p> <p>(1) 高齢者、身体障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成により、入館者の満足度の向上を図ること。</p> <p>(2) 小中学生の入場料の低廉化、夜間開館の実施等開館時間の弾力化その他各館の入館者、入館希望者の要望、利用形態等を踏まえたサービスを提供することにより、気軽に利用でき、親しまれる博物館づくりを推進すること。</p> <p>(3) ミュージアムショップやレストラン等のサービスの充実を図り、入館者の観覧の満足度の向上に寄与するよう図ること。</p>	A	<p><b>6 その他の入館者サービス</b></p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる博物館となるよう努力する。</p> <p>(3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	その他の入館者サービスの状況	<p>法人が提出する中期期間終了後の事業報告書やヒアリング等を基に、その達成状況を各委員の協議で評定</p>	東京	A	A	A	A	A	S	<p>入館者サービスは、独法化以後の5年間で、小中学生の平常展の無料化、開館日の増、開館時間の延長、レストランのメニューの充実やミュージアムショップの商品の充実など様々な改善・工夫が行われ、高く評価できる。</p> <p>今後は、年々増加する高齢者のためのソファ設置やサイン表示の文字の大きさの配慮、また、青少年層が楽しく過ごせる飲食施設などの空間の整備が必要である。</p> <p>一方、第2期中期目標期間に入ってからすぐに平常展入場料を値上げすることについては時期尚早であり、十分な審議が必要である。</p>
			京都	A	A	B	A	A	A	A		
			奈良	A	A	A	A	A	A	A		
			九州					A	S			

中期目標の達成状況

(イ) 国民に親しまれる博物館を目指し、社会や国民のニーズに沿った柔軟なサービスと質の高い業務の展開が行われた。この結果として入館者数及び自己収入が大きく増加した。

(ロ) 中期目標に従い、省資源化、民間委託の推進、各館共通的事務の一元化による効率化の推進、積極的な情報提供などによる透明性の確保、自主的・自立的な運営が行われた。

(ハ) 特に九州国立博物館については、中期目標どおり平成17年度に開館し、地域性を生かした展覧会により、開館後半年足らずの間に目標を大幅に上回る入館者を集め、地域の活性化にも大きく貢献した。

(ニ) 博物館の根幹的機能である文化財の収集・保管、公衆への観覧、教育普及及びこれらに関する調査研究も目標に従い着実に達成された。